



選手	打率	安打	打点	盗塁	失点	失球	失策	打率	安打	打点	盗塁	失点	失球	失策
光 伊藤	.400	20	1	0	0	0	0	.500	5	0	0	0	0	0
三 壘	.375	15	2	0	0	0	0	.600	6	0	0	0	0	0
小 淵	.350	14	1	0	0	0	0	.429	3	0	0	0	0	0
智 輝	.325	13	0	0	0	0	0	.600	6	0	0	0	0	0
弘 智	.300	12	0	0	0	0	0	.600	6	0	0	0	0	0
藤 田	.275	11	0	0	0	0	0	.600	6	0	0	0	0	0
林 田	.250	10	0	0	0	0	0	.600	6	0	0	0	0	0
村 井	.225	9	0	0	0	0	0	.600	6	0	0	0	0	0
村 井	.200	8	0	0	0	0	0	.600	6	0	0	0	0	0
吉 橋	.175	7	0	0	0	0	0	.600	6	0	0	0	0	0
藤 岡	.150	6	0	0	0	0	0	.600	6	0	0	0	0	0
計	.373	115	13	7	6	4	2	.470	13	2	2	2	2	2



初回光星1死二塁、四球を選ぶ田城飛翔

「後悔はない」  
田城 晴れやかな表情

○：「負けはしたが、後れた様子で話した。悔はない。光星の右翼手 序盤から優位に進んだ。田城飛翔は試合後、吹っ切り合展開。三回途中にマウン

### 涙もすも果た役割 3度出塁 1番伊藤



初回光星、セーフティーバントした伊藤優平が一塁へ全力疾走する

○：「相手や球場の雰囲気、先制のホームを踏むのは分らないので集中して気だのまれてしまった。どリードオフマンとして役割を果たした。光星の伊藤優平は涙でまさかの敗戦を悔しがった。しかし、三振を喫した四回この試合から打数3安打。回と七回の打撃が納得いかけていれば」とと誓をかない様子だ。一回があるか

### 「次は自分が」 唯一の2年小淵



7回光星1死一、三塁、小淵智輝弘が右前打を放ち、7-2とする

○：「全く納得がいかならざるを隠さなかった。ベンチ入りした小淵智輝弘は「三回一死満塁の好機でゴロに倒れ、もっと先輩たちの力になりたかった」と悔意を見せた。新チームに向けてこの負けを生かす。次は自分中心になつて、(新チームを)引っ張っていき」と誓った。

下を降りた大会屈指の好投手藤嶋健人とは、もう少し力を出し切ったことに、挑戦したい」とと考えていた。それほど対策も十分に講じていた。目標はプロ入りだ。今日の結果的にサヨナラ負けをレベルを上げたい。プロになるだけでなく、プロで1人で真に向勝負をして活躍するために」とと誓った。それによって仕る飛翔を驚かせた。

光星は7回、盗塁を狙った一走藤嶋健人をタッチアウトにする。遊撃手小林直輝



光星は7回、盗塁を狙った一走藤嶋健人をタッチアウトにする。遊撃手小林直輝



5回、ランを放ち指を突き上げて一塁を回る光星花岡小次郎

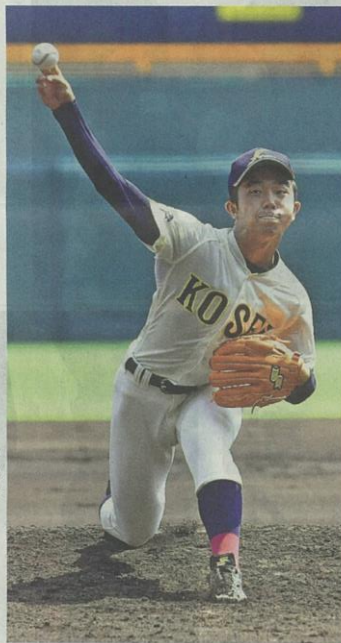
## 花岡4安打5打点 「責任持って振った」

○：ランを含む4安打5打点の活躍を見せた光星の花岡小次郎は自身の打撃に納得しつつ、チームが敗戦し、「甲子園は楽しい場所ではなかった」と振り返った。

ベンチ入りできなかったメンバーの思いも背負って臨んだ試合。立った打席は「責任を持って振りにいった。言葉通り、3安打した初戦に続き、打力を発揮した。」

だが七回に左ふくらはぎをつり交代。チームも敗れた。青森大会では想定できなかった、エースが打たれた状況も目の当たりにした。「全国は甘くはない」とレベルの高さを痛感し、「責任を果たすことはできなかった」と悔しがった。

それでも、できる限りの戦いをしたため「後悔はない」ときっぱり。花岡は「日頃の練習をどれげやうたかで成果が変わる。後輩たちには毎日の練習を欠かさず、そして抜かず、甲子園で上を目指してほしい」と指導を託した。



先発した光星の和田悠弥

## 「力が足りなかった」和

○：光星の先発は右腕和田悠弥。直球は自己最速の140km/hを計測するなど、二球の切れは悪く、テンポ良く直球やカットボールを投げ込んだが、初戦で19球を投げ、相手打線に「まだまだ得点した強力打線にかまひ始

め、三回で失点で降板した。自分の力が足りなかったと悔

やんだ。  
土壇場での逆転負けをベンチから見ていた和田は「(三)戦の、櫻井が打たれたのなら仕方がない」としつつ、「もっと自分が投げて、負担の掛からない展開にきていければ」と責任をにじませた。